

愛って何色？

台本師 梅雨

○「今日は久しぶりのデート楽しかったよ！ありがとう。最後に、これからどこに行くの？」

●「お前に見せたい景色があるんだ。まあ、着いてからのお楽しみ」

○「見せたい景色？」

●「うん。珍しく急にデートに誘ってきたから心配だったんだよ。何かあったんだろ？顔色悪いし…」

○「なーんか最近仕事が上手くいかなくてさ。他にも色々悪いこと続きで、お先真っ暗って感じ」

●「そういうこと、全然俺に言わないもんな」

○「大人になると素直になれなくて嫌になるね。その自転車ニケツしてる高校生見るだけで青春だな…なんて。私もおばさんになったなー」

●「アオハルってやつ？もう、秋なのにな。春って青いのか？」

○「ふふっ…なにそれ」

●「春ってピンクのイメージだろ？」

○「確かに。それに、●●は高校時代はモテたもんね。青春そのものだったじゃない。野球部のエースだったから、部活の度に黄色い声援が飛んでたっけ…」

●「赤の他人に好かれたってしょうがないだろ。俺はあの頃からお前しか見てなかったし。吹奏楽部だったお前が奏でる音色が、練習頑張る糧になってたんだよ」

○「よくもまあそんなことを恥ずかしげもなく…って、顔真っ赤じゃない！」

●「う、うるせえ！お前はすぐ俺の顔をうかがってくる…そんなにわかりや

愛って何色？/梅雨

改変○：一人称・語尾・男女逆転・同性・方言 ※その他改変については要相談

改変○：一人称・語尾・男女逆転・同性・方言 ※その他改変については要相談

すいか？俺…」

○「めちゃくちゃわかりやすいわよ！動揺すると声色まで変わるし」

●「ほ、ほら！俺って清廉潔白だし？嘘がつけないんだよ！」

○「自分で清廉潔白だなんて言っちゃうんだ！面白っ！」

●「いいだろ！」

○「ごめんごめん！つい意地悪したくなっちゃうんだよね。腹黒いやつだなあ…
なんて思ってる？」

●「思っていないから！ほら、着いたぞ！」

○「え？昔よく遊びに来てた海岸じゃない。どうしてここに？」

●「お前、この海が青いことは知ってるよな？」

○「当たり前じゃない！何度も来てるんだし。それに、海って青いものでしょ？」

●「そうかな？…もうそろそろだ。俺が見せたかった景色に変わる」

○「うわあ…夕焼けで海が茜色に…。綺麗…」

●「お前は昔から頑固だし、一人で頑張って一人で無茶して一人で抱え込んで…
何色にも染まらないやつなんだって思ってた」

○「え？」

●「今日、初めてお前が弱音吐いてるのを聞いて思ったんだよ」

○「うん」

●「お前は海と一緒にだ。そして俺は太陽」

○「私が海で、●●が太陽？」

●「昼間の太陽は海を青く見せるけど、太陽が赤くなれば海も赤く染まる。つまり、一人で抱え込まないで、俺と一緒に…」

- 「ぷっ…うふふ…あははは！」
- 「なんで笑うんだよ！」
- 「そんなロマンチックな例え、●●には似合わないわよ！」
- 「失礼だな！たまには俺だって…」
- 「わかってるよ。私の為に一生懸命考えてくれたんでしょ？ここに連れて来ること、私にかけ言葉も。」
- 「そうだよ。色々悩んで真っ青な顔をしてるお前を見てたら、ここに連れて来なくなっただ」
- 「まったく。●●は本当に不器用なんだから」
- 「うるせえ…」
- 「そうね、確かに私は何ものにも染まらないかもしれない。あなたという色以外には」
- 「お前だって…そんなロマンチストだったか？」
- 「そうよ！？知らなかったの？」
- 「じゃあ、ロマンチストのお前に聞く。愛って何色だと思う？」
- 「愛の色？」
- 「青春を謳歌してる高校生の恋は、きっと桜みみたいなピンク色だと思うんだ。じゃあ、愛って何色なのかなって」
- 「そんなのどうだっていいじゃない、愛が何色でも。愛なんて、きっといろんな色に変わるものなのよ。それに、人生彩りがあった方が楽しいでしょ？」
- 「そうだな。お前らしい答えだ。俺も、お前の人生を彩る色になりたい」
- 「もうなってるじゃない」

愛って何色？/梅雨

改変○：一人称・語尾・男女逆転・同性・方言 ※その他改変については要相談

- 「そうか？俺って何色？」
- 「さあねー？そろそろ帰ろうか。太陽が隠れて真っ暗になる前に」
- 「俺は隠れないですつと傍にいるぞ…」
- 「ふふっ…はいはい」